

News! the 世界遺産

中学生作文コンクール「世界遺産を鎌倉に！私の提案」表彰式と発表会

鎌倉市内の中学生を対象に、「世界遺産を鎌倉に！私の提案」をテーマとして、平成20年の夏に作文コンクールが実施されました。このコンクールは、中学生の鎌倉の世界遺産登録に対する関心を深め、登録推進活動に取り組む機会を作ることを目的としたもので、2回目の開催となる今回は324点の作品が寄せられました。

多数の作品の中から、鎌倉で生まれ伝えられてきた武

家文化と都市に隣接して残っている自然をアピールするべきと主張した岩瀬中学校の池田朱里さんの作品が最優秀賞を受賞し、平成20年12月6日に表彰式と発表会が行われました。以下は、その作文の内容になります。

この作文は、4月18日(土)に実施予定の講演会「鎌倉大仏の歴史的な意義」のオープニングで、池田朱里さんによる朗読が行われます。詳しくは12ページをご覧ください。

世界遺産を鎌倉に！私の提案

鎌倉市立岩瀬中学校2年 池田朱里

鎌倉では世界遺産に向けての運動が盛んに行われている。私も鎌倉が世界遺産登録されることを願っている。登録を目指す理由は、世界遺産に登録すれば、鎌倉にある歴史遺産を後世に伝えることができるからである。この鎌倉を世界遺産に登録し、人類共通の財産として保全していくことは私たちの使命ともいえるだろう。そして、その使命を果たした時、鎌倉の魅力である武家文化の歴史遺産を世界中の人々に伝えることができるのだ。さらに、世界遺産登録への推薦を目指すことによって、関係行政機関や地元住民が一体となり、鎌倉のよりよい新たな町づくりにつながるにちがいない。

では、鎌倉が世界遺産に登録されるためには何が必要だろうか。私は、鎌倉の特徴をもっと前面に出すべきであると考えている。なぜなら、すでに登録されている京都・奈良と比べると「古都」という点では特徴が似ていて、世界遺産登録に至らないと思われるからである。鎌倉は日本史上初めて登場した、武家によって築かれた東国の政権都市である。鎌倉幕府を開いた源頼朝は要塞となる地形を選び、さらに人工的に手を加え、より防衛力を高め、鎌倉に幕府をおいた。私たちはその点に着目し、特徴として打ち出そうとしている。この武家文化は明らかに京都・奈良にはない特色であり、それを前面に打ち出すことによって鎌倉の独

自性をアピールすることができる。この独自性が認められない限り、世界遺産に登録されることはないだろう。時が流れ、新しい町づくりや開発の中、鎌倉の重要な文化財が失われてしまうかもしれないという不安もある。世界遺産登録を目指すには、まず、ここ鎌倉だけにある武家文化を出していくべきなのだ。また、都市に隣接しながら残っている海や山、実はここにも文化的価値があるのだが、豊かな自然にも目を向け、鎌倉の良さをアピールしていけばよいと思う。

ところで、世界遺産登録地にはそれぞれ後世に残したいものが必ずある。鎌倉は後世に何を残すのか。私はここ鎌倉にあり、鎌倉そのものともいえる武家文化を、日本の歴史や文化に多大に影響を及ぼした武家文化を後世にまで守り伝えていきたい。一例を挙げれば、鎌倉時代、武士や民衆に流布し、鎌倉新仏教といわれた禅宗・浄土宗・時宗・日蓮宗などの宗派は、武士の中にも広まり、全国に広まっていた。その寺々は、今生活しているこの町にある。

武家文化を後世に伝えることは、鎌倉独自の歴史遺産が人類共通の遺産として世界的に認められることでもある。だから私は、今生きているこの町鎌倉にある武家文化、目に見える文化も目に見えない文化も守り続けていきたい。

以上、述べてきたように、私は鎌倉の世界遺産登録を心から願い、それらが人類の歴史上共通の宝となることを信じてやまない。これが鎌倉に住む私からの提案である。

Watch! the 世界遺産

北条氏常盤亭跡は整備が進められていましたが、新たに説明板やタチンダイ（館の台、立見台）へ行く表示、道路に沿った木の柵などが設けられました。タチンダイもすっかりきれいになっており、遊歩道には足にやさしい木製チップが敷き詰められています。

北条氏常盤亭跡で

近くにある大仏切通も近々整備に着手する予定です。

